

吹田民主商工会 いんぷお め〜しよん

戦争体験を語り継ぐ

8月3日(土)あい川支部で4回目となる「戦争体験を語り継ぐつどい」を開催し、18名が参加しました。会員外の方にも参加していただきこうと事前に地域に一千枚のビラを配りました。そのビラを見て「ぜひ参加して、お話をしたい」と今年100歳になる男性の方の参加もありました。

集いでは、岡崎支部長が「いまだ本では、戦争体験者は1千160万人、兵隊として戦争に行かれた方は62万4千人と言われています。全人口の0.5%になっています。そうしたことから戦争体験を大いに語り合ひ若い人たちに語り継いでいきましよう。」とあいさつしました。



最初に、「はだしのゲン」の紙芝居を鑑賞し、軽食を食べながら、それぞれの戦争体験を語り合いました。100歳の方は、「戦争は殺すか、殺されるか」それしかない。自分は絵を描くんが好き、人が好き、なのに何でこの自分が兵隊になつて戦地にいるのか」と思っていたそうです。また、戦闘になった時、「もう死のうと思ひ、敵の前に立ちました、弾が当たらず、生きています」と語られました。他の参加者のみなさんからは日本内地での体験談として、「洗脳されていて男の人が戦争に行くことを何とも思わなくなつていた」「学校では竹やりで戦闘の訓練をさせられた」「女学校での勉強は、いま日本軍がどこまで進行しているのか、その地域からはゴムがよく取れるとか、そんなことを学んでいた」また、「人口が増えたらどうするのかの質問に戦争が起きて人口淘汰されるといふのが模範解答になつていた」などが話されました。また、「小中学校で『道徳』が授業となつていくけど、あの時代も道徳や修臣が中心やつた。戦争が始まるように思ふ。自分らが戦争中のことを伝えたいといけない」とのお話もありました。いま、安倍政権は、憲法を変えて、戦争する国づくりを加速させようとしています。こうした戦争体験や平和への思いを語り合うことが大切なことを痛感するつどいとなりました。



国保統一化反対署名スタート集会

7月30日に吹田市立勤労者会館において吹田社会保障推進協議会国保部会が主催する国保統一化反対署名スタート集会が行われました。集会では、新婦人の会平岡さんの挨拶のあと、吹田民商事務局の布施事務局長が国保の現状と統一化について報告しました。最初に国保と協会けんぽと比較し保険料がどれほど高いかについて示しました。高くなった原因について、加入世帯の構成が制度当初は農林水産業と自営業から非正規雇用と年金生活者に変つて、平均所得も大幅に下がっていることや、国保制度は国民皆保険制度の実現のため当初から国の補助を必要の制度であつた現在では補助の割合が減らされたため、加入世帯の負担が重くなつていふと報告。国保の都道府県統一化の変更点としては、財源が都道府県の責任に変更されることを報告し、都道府県化を機に勧められた大阪府の統一化の内容について報告しました。公正を口実に地域の医療格差を無視して保険料が統一化されること。減免基準も統一化で住民要求から築き上げた各自自治体の減免をなくし、減免の財源として一般財源からの繰り入れを解消すべきと指導すること。保険料の徴収では大阪地方税徴収機構への参加が運営方針にあること、これらが激変緩和措置の6年間をかけて進められることを報告しました。また国民健康保険室と社保協国保部会の懇談で、激変緩和措置3年目で統一化の検証がされる際に、吹田市はこの時にしっかりと意見することを表明していることを紹介しました。質疑応答では参加者からの統一化の財源のことや、医療格差と保険料の関係などの質問がありました。最後に署名用紙の説明と協力を訴え、世論を広げて来年の府議会議員選挙と府知事選挙の争点にすることを訴えました。



「沖縄・名護からの報告」

日時 8月17日(金)夜7時 民商會館
報告 西尾 栄一さん

沖縄では、翁長県知事が辺野古埋め立て承認撤回のための手続きが進められています。また、新基地建設の賛否を問う住民投票条例の制定を求める直接請求署名が法定必要数の4倍以上が集まるなど、大きな動きがあります。そして今年の沖縄は9月に名護など12市町村で議員選挙、10月に那覇市長選挙と続き、11月には沖縄知事選挙が行われます。現地の運動をご紹介します。

お買い物は地元市場商店街で・商工業者の繁栄は市民とともに！

吹田市川園町20-1
TEL (06) 6383-2211
FAX (06) 6382-8190
<http://www.suita-minshou.com>
suita-ms@jasmine.ocn.ne.jp

毎週木曜日の
昼2時・夜7時
なんでも相談会